

2025年度 サステナブル・ブランド国際会議 学生招待プログラム

第6回 SB Student Ambassador 東海大会

令和7年10月27日

テーマ：これからも「ものづくり大国」であり続けるための、まちづくりを考えよう

令和7年10月25日（土）に名城大学ナゴヤドーム前キャンパスにおいて行われ、本校からは国際探究科1年生の生徒が12名参加しました。

以下は、生徒の感想です。

「自然×地方創生」 国際探究科1年

私たちのグループでは、10年後も人が集まり続けるだけでなく、エコで環境に良いというSDGsにも特化した町づくりを目指しました。

一番印象に残っているのは、トークテーマを「ハマグリの殻」と「蓮の葉」の二つのキーワードを用いたトークテーマにしたことです。これはグループ活動で交流した皆と案を出し合ったことで、このようなテーマができたので、自分一人では絶対思いつくことのない組み合わせだと思います。このことを通して、グループ活動をすることのメリットは「一人では想像もつかなかつたようなことが複数の人数で行うことで可視化されること」なのだと改めて再認識させられました。

今回のディスカッションを通して、私がこれから大切にしていきたいと思ったことは、「恥を捨て、精一杯楽しむ」ということです。

グループのメンバーは初対面ということもあります、なかなか話し合いがうまく進まず、後悔の残った場面もありました。そこで、誰かがリーダーとなり、引っ張っていく存在がいることでスムーズな話し合いに繋がっていくのだと気づかされました。そのためには、「人見知り」や「恥ずかしい」などの考えは捨てなければなりません。このことを踏まえ、からの探究活動に生かせたらいいなと思いました。

「モビリティの未来」 国際探究科1年

私は、テーマ4「モビリティの未来」についての講演を聞き、グループでディスカッションをしました。バスや電車の廃線が課題となり、地方の交通手段が少なくなっている今、グリーンスローモビリティという電動カートを使用し、誰でも簡単に移動ができる社会をヤマハ発動機株式会社さんは作ろうと試みていました。

私たちのグループは、グリーンスローモビリティを陸、森、海でどのように使えるかを考え、また、SDGsの目標に近づくかを話し合い、発表しました。私では思いつかないような斬新で、面白い意見がたくさん出て、良い刺激になりました。そして、ありがたいことに私たちの発表が評価され、代表に選ばれ、大勢の前で

発表して、良い経験になりました。

今後の学校での探究活動では、今回刺激をもらった「斬新で面白い」という視点を大切にして、よりよい探究になるように取り組んでいきたいと思いました。

「基調講演を聞いて」

国際探究科 1年

私たちは長曾我部さんのお話を伺い、「自分の目で確かめ、行動を起こすことの大切さ」を、学びました。前半では、長曾我部さんが代表を務める FiberGlaze 株式会社の取り組みについての紹介がありました。実際に現場を見て課題を発見し、改良を重ねて行動することが成果に繋がるのだと感じました。また、体験談から、失敗してしまっても恐れず挑戦することの大切さを学びました。私がこの大会に参加した理由は、来年行われる WWL に向けて自身の演説能力を高めたいと思っており、場数を重ねてきた大人の方々の講演を聞くことで、自分と比較し、成長のきっかけになると思いました。WWL では、自らの体験を交えた発表を目指し、日常生活においても自分で行動を起こし、確かめる姿勢を意識していきたいです。



国際探究科 大谷 晓子